

編集後記

今月の特集は脳性麻痺(CP)である。CPは以前のいわゆる肢体不自由児施設ではその入園者に占める比率は少なかった。もっと他の疾患たとえばカリエス、ペルテス、インペルフエクタなどがいたように思う。最近ではCPが圧倒的に多くなっているのが全国的傾向である。

診断のための基礎的神経学は、整形外科医でありながら神経学の研究に多くの業績を報告しておられる中村隆一氏らにより、反射の障害を主体とする運動障害という形で明快にまとめられた。江口壽榮夫氏はCPの最近の治療の動向として薬物療法と共に母親の協力下の早期訓練の必要性を説いておられる。CPの超早期療育の合併症は最近 Vojta の方法論も批判もないわけではない点から考えても興味深く、中島雅之輔氏によって述べられている。

CPの就学と就労は五味重春氏によってまとめられたが、31.7%がなんらかの形で働いているという文中の佐藤氏の論文引用があり、もちろん予想されるようにADLの独立

性との関連が重要であるが、今後の就業率がさらに上がることが期待される。米国においてはもっと複雑で重要な仕事に就いている例が見られ、編集子の訳した短論文の著者 Strax がその1人である。意外に偏見が存在しており、また患者の1人として悩んでいるらしく、身障者の心を垣間見たような気がする。そしてまた、本邦の高品明典氏の手記も読むものの心を動かさずにはおかぬであろう。

また、「研究と報告」欄の江沢氏らの論文は本脳性麻痺特集の論文と関連して読まれることを推める。ダウン症候群に対する早期療育の基本的考えとして起早期からのとりくみの重要性は安藤論文に見られる。その他、土肥豊氏の心疾患循環器入門と兼松英夫氏の片麻痺の歩行訓練の講座、またヨーロッパ諸国のリハビリテーション(西ドイツ)なども含まれており本号も盛沢山になっている。なお、症例報告があれば是非欲しいものと思うようになった昨今である。

(大井 淑雄)

次号予告(第7巻第7号)

特集 一般病院におけるリハビリテーション活動

都市中規模病院におけるリハビリテーション活動

(脳卒中患者の流れを中心に).....代々木病院 二 木 立

農村の地域中心病院におけるリハビリテーション活動

.....佐久総合病院 磯 村 孝 二

労災病院におけるリハビリテーション活動の

現状と問題点.....九州労災病院 長 尾 竜 郎・他

大学病院におけるリハビリテーション活動.....東大病院 上 田 敏・他

座談会／リハビリテーションにおける一般病院とリハ

専門病院の協力・役割分担はどうあるべきか.....七沢病院 横 山 巖・他

講座 リハビリテーションにおける治療(7)

(片麻痺手指に対する治療).....七沢病院 福 井 圀 彦

脳性麻痺の周辺(1)(合併症).....東京女子医大 丸 山 博

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 壽榮夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加倉井 周一
河 邨 文一郎
五 味 重 春
斉 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長谷川 恒雄
橋 倉 一 裕
福 井 圀 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 敏
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)